



Quest®
Recovery Manager 7.10
for Active Directory

Forest Edition



新機能

© 2009 Quest Software, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

このガイドには、著作権で保護された専有情報が含まれています。このガイドで説明されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンス契約または機密保持契約に基づいて提供されています。このソフトウェアは、該当する契約の条件に従った場合のみ使用またはコピーが許可されています。このガイドのいかなる部分も、写真複写や録音を含む電子的または機械的ないかなる形式または手段においても、購入者の個人的な使用以外の目的で、クエスト・ソフトウェア社の書面による許可なく複製または転送することはできません。

本書の使用の可能性に関するお問い合わせについては：

クエスト・ソフトウェア株式会社
〒102-0076

東京都千代田区五番町 10 番地
五番町 KU ビル 3F

www.quest.com/japan

電子メール：japansales@quest.com

商標

Quest、Quest Software、Quest Software ロゴ、Aelita、Akonix、Akonix、AppAssure、Benchmark Factory、Big Brother、ChangeAuditor、DataFactory、DeployDirector、ERDisk、Foglight、Funnel Web、GPOAdmin、I/Watch、Imceda、InLook、IntelliProfile、InTrust、Invertus、IT Dad、I/Watch、JClass、Jint、JProbe、LeccoTech、LiteSpeed、LiveReorg、MessageStats、NBSpool、NetBase、Npulse、NetPro、PassGo、PerformaSure、Quest Central、SharePlex、Sitrika、SmartAlarm、Spotlight、SQL LiteSpeed、SQL Navigator、SQL Watch、SQLab、Stat、StealthCollect、Tag and Follow、Toad、T.O.A.D.、Toad World、vAnalyzer、vAutomator、vControl、vConverter、vEssentials、vFoglight、vMigrator、vOptimizer Pro、vPackager、vRanger、vRanger Pro、vReplicator、vSpotlight、vToad、Vintela、Virtual DBA、VizionCore、Vizioncore vAutomation Suite、Vizioncore vEssentials、Xaffire、および XRT は、クエスト・ソフトウェア社の登録商標です。このガイドで使用されているその他の商標および登録商標は各社に帰属します。

免責事項

本書に含まれる情報は Quest 製品に関して提供されます。如何なる知的財産権に対する明示、黙示、禁反言またはその他のライセンスも本書により、または Quest 製品の販売に関連して付与されるものではありません。本製品のライセンス契約に明記された QUEST の契約条件に規定されたものを除き、QUEST はその製品に関連する如何なる責任も負うものではなく、また明示、黙示あるいは法定の保証を否認します。これには、商業性、特定用途への適合性、または権利の非侵害を含み、これらに限定されない黙示の保証が含まれます。QUEST はいかなる場合にも、本書の使用または使用の不能により生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特殊のまたは付随的損害（利益の損失、業務の中断、情報の紛失を含み、これらに限定されない損害）に対して、かかる損害の可能性を通知されていた場合にも、責任を負いません。Quest は本書の内容の正確さや完全性に関して如何なる表明または保証を行うものではなく、また、仕様および製品説明を予告なく随時変更する権利を保有します。Quest は本書に含まれる情報を更新することを確約しません。

Recovery Manager for Active Directory Forest Edition - 新機能

更新日 - 2009 年 8 月 31 日

ソフトウェア バージョン - 7.10

目次




対象読者	5
表記規則	5
クエスト・ソフトウェアについて.....	6
クエスト・ソフトウェアの連絡先	6
カスタマーサポートの連絡先	6
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY FOREST EDITION 7.10 の新規機能.....	7
WINDOWS SERVER 2008 R2 のサポート	7
削除済みオブジェクトの管理の向上	7
特定の削除済みオブジェクトのさらに簡単になった検索および回復	7
MICROSOFT の ACTIVE DIRECTORY RECYCLE BIN 機能に基づいてタスクを実行... ..	8
親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する	9
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY FOREST EDITION 7.9 の新規機能.....	10
グラニューラ、ドメインレベルの回復	10
ドメイン コントローラの降格.....	10
回復の警告	10
回復一時停止	10
回復計画	11
FOREST RECOVERY コンソール /FOREST RECOVERY エージェントの通信の安定性... ..	11
FOREST RECOVERY エージェントの管理	11
ユーザー インターフェイスの改善	11
カスタム スクリプトの実行	12
グローバル カタログ データベースを再構築しない機能	12
回復レポートのエクスポート	12
バックアップ フィルタ	13
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPV6) のサポート.....	13
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY FOREST EDITION 7.8 の新規機能.....	14
WINDOWS SERVER 2008 のサポート.....	14
フォレスト回復の持続性	14

対象読者

本書は、Recovery Manager for Active Directory Forest Edition について理解していただくための補助として作成されました。「新機能」には、Recovery Manager for Active Directory Forest Edition のインストールと使用に必要な情報が記載されています。この文書は製品を使用するネットワーク管理者、コンサルタント、アナリスト、そしてその他全ての IT プロフェSSIONALの方々を対象としています。

表記規則

このガイドを最大限に活用していただくために、表記規則を具体的なフォーマットに作成しました。これらの規則は手順、アイコン、キー操作、およびクロス リファレンスに適用されます。

要素	表記規則
選択	ファイルやラジオ ボタンなどさまざまなインターフェイス要素の選択や強調表示といった動作を表します。
太字テキスト	メニューやコマンドなど、Quest Software 製品で使われるインターフェイス要素を表します。
斜体テキスト	コメントに使用されます。
太字斜体テキスト	強調するとき使用されます。
青色テキスト	相互参照を表します。Adobe® Reader® で表示するとき、この形式はハイパーリンクとして使用できます。
	記載されるプロセスに関連する追加情報の強調表示に使用します。
	ベスト プラクティス情報の提供に使用します。ベストプラクティスは最良の結果を出すための推奨される行動方針を詳しく説明するものです。
	実行に注意の必要なプロセスを強調表示するために使用します。
+	2 つのキー操作の間にプラスのマークがある場合は、それらを同時に押します。
,	要素の間に読点がある場合は、その特定のシーケンスで要素の選択を行う必要があります。

クエスト・ソフトウェアについて

クエスト・ソフトウェアは、貴社の既存のアプリケーション、データベース、および Windows インフラストラクチャからより高い性能と生産性を引き出す革新的な製品をお届けします。高可用性、監視、データベース管理、インフラ管理を目的としたクエスト製品により、基幹業務アプリケーションのパフォーマンスおよび稼働時間が向上し、IT 専門家はより少ないリソースでより多くの業務を達成できます。カリフォルニア州アーバインに本社を置クエスト・ソフトウェアは全世界に支社を持ち、世界中の 100,000 社を超えるお客様に支えられています。クエスト・ソフトウェアの詳細については、www.quest.com/japan をご覧ください。

クエスト・ソフトウェアの連絡先

電子メール：japansales@quest.com
住所：クエスト・ソフトウェア株式会社
〒102-0076
東京都千代田区五番町 10 番地
五番町 KU ビル 3F
Web サイト：www.quest.com/japan

カスタマーサポートの連絡先

Quest Software は、ワールドワイド・サポートを提供しておりますので、以下の連絡先からお問い合わせ頂くことが可能です。(ただし英語のみ)

SupportLink：www.quest.com/support
Email：support@quest.com

SupportLink では以下の操作を行って頂けます。

- サポートリクエストの作成、更新、閲覧
- ナレッジベースの検索
- FAQ へのアクセス
- パッチのダウンロード

尚、日本語でのお問い合わせは、下記電子メールアドレスをご使用ください。

Email：support@questsoftware.co.jp

Recovery Manager for Active Directory Forest Edition 7.10 の新規機能

現行の調査と開発およびお客様のご意見により、Recovery Manager for Active Directory Forest Edition のこのバージョンは、Windows Server 2008 R2 に対応し、削除済みディレクトリ オブジェクトの管理が改善されました。次のセクションでは、これら新規機能について説明します。

Windows Server 2008 R2 のサポート

Recovery Manager Forest Edition のこのリリースでは、Windows オペレーティング システムの新しいバージョンである Windows Server 2008 R2 に完全対応しています。

Windows Server 2008 R2 のサポートにより、

- Windows Server 2008 R2 の任意のバージョンを実行しているコンピュータに Recovery Manager Forest Edition をインストールして使用できます。
- 機能レベルが Windows Server 2008 R2 であるドメインまたはフォレストの Active Directory データをバックアップおよび復元できます。
- Windows Server 2008 R2 に同梱されている Active Directory バージョンの新規機能の Microsoft の Active Directory Recycle Bin により、多数のタスクを実行できるようになりました。詳しくは、[「Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいてタスクを実行」- 8 ページ](#) を参照してください。

削除済みオブジェクトの管理の向上

Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンでは、強化された削除済みディレクトリ オブジェクトの管理を提供しています。それにより以下が可能になります。

- Recovery Manager Forest Edition が提供した**削除済みオブジェクト** コンテナの特定のオブジェクトの簡単な検索および復元を実現。
- Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいて多数のタスクを実行。
- 親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する。

特定の削除済みオブジェクトのさらに簡単になった検索および回復

Recovery Manager Forest Edition で特定の削除済みオブジェクトを検索および回復するのに、Recovery Manager Forest Edition コンピュータの Recovery Manager コンソールと Active Directory ユーザーおよびコンピュータ ツール (ADUC) に表示される各ドメインに対して提供されている**削除済みオブジェクト** コンテナを使用することができます。利用するコンテナの場所 (Recovery Manager コンソールまたは ADUC) に関係なく、特定のオブジェクトを検索および選択して復活させる、または Recovery Manager Forest Edition で作成したバックアップからそれらを復元するための統一機能を提供します。

削除済みオブジェクト コンテナに実装されている新規機能により、さらに簡単にドメインの特定の削除済みオブジェクトを検索できるようになりました。**削除済みオブジェクト** コンテナの内容を表示する場合に、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能を有効にすると、名前、タイプ、削除日、および廃棄 (tombstone) の有効期間、または削除済みオブジェクトの有効期間などの条件で、オブジェクトの並べ替え、グループ化、またはフィルタを行うのに、Recovery Manager コンソールと ADUC を使用することができます。

削除済みオブジェクト コンテナの内容を表示する場合に、名前、タイプ、削除データ、寿命の終了時（Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能を有効になっている Windows Server 2008 R2 環境で、オブジェクトが削除された場合のオブジェクトの廃棄（tombstone）の寿命終了時、またはオブジェクトの削除済みオブジェクトの寿命終了時）などの条件で、オブジェクトの並べ替え、グループ化、またはフィルタを Recovery Manager コンソールと ADUC を使用して行うことができるようになりました。

削除済みオブジェクト コンテナの内容を、階層または一覧表示のいずれかの表示方法が選択できるようになりました。

階層表示では、削除済みオブジェクトとコンテナ（組織単位または OU）、および削除済みオブジェクトが含まれている既存のコンテナを表示します。この表示には、各削除済みオブジェクトが、削除直前の状態組織構造のレベルで表示されます。階層表示を使用中に、特定の削除済みオブジェクトを選択して回復するか、そのコンテナの【**削除したオブジェクトを回復**】コマンドを実行して、一度に特定の既存のコンテナのすべての削除済みアイテムを回復することができます。

一覧表示は、**削除済みオブジェクト** コンテナの内容を、削除済みオブジェクトの一覧として表示します。この表示では、既存のコンテナを非表示にし、バックアップから復活または復元する必要がある削除済みアイテムに焦点を合わせることができます。

Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいてタスクを実行

Windows Server 2008 R2 オペレーティング システムに同梱されている Active Directory バージョンには、新規機能の Microsoft の Active Directory Recycle Bin が追加されました。Recovery Manager Forest Edition に統合されたこの Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能は、次の通りです。

- 削除済みオブジェクトを選択して削除を取り消す。
- 削除済みオブジェクトの状態を「リサイクル」に転送。
- ドメインのリサイクル オブジェクトのリストを表示する。

フォレストで有効になっている場合、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能は、削除済みオブジェクトの寿命のサイクルを次のように明確に変更します。ディレクトリ オブジェクトを削除すると、次の段階的な状態になります。

- 状態 1: 削除済み
- 状態 2: リサイクル

削除時のオブジェクトの状態は「削除済み」に変わり、Recovery Manager Forest Edition が提供する**削除済みオブジェクト** コンテナにそのオブジェクトが表示されます。但し、削除済みオブジェクトは、削除時に存在したその属性、リンク、およびグループ メンバーすべてを維持します（各削除済みオブジェクトがその属性の一部しか維持しない pre-Windows Server 2008 R2 バージョンの Active Directory とは異なります）。オブジェクトは、**削除済みオブジェクトの寿命**と呼ばれる指定された構成可能な期間の間「削除済み」の状態のままです。適用可能な削除済みオブジェクトの寿命が過ぎると、オブジェクトは次の段階「リサイクル」に移動されます。

オブジェクトが「削除済み」状態にある場合は、Recovery Manager Forest Edition が提供する**削除済みオブジェクト** コンテナを使用して、削除直前に存在したその属性、リンク、およびグループ メンバーシップすべてと一緒にオブジェクトを復活することができます。または、Recovery Manager Forest Edition で作成したバックアップから特定のバックアップ状態に復元することができます。

Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能が有効の環境で、Product Name を使用して適用可能な削除済みオブジェクトの寿命の設定を無効にして、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能が有効になっている Active Directory 環境で、削除済みオブジェクトの状態を「削除済み」から「リサイクル」に手動で変更することができます。

削除済みオブジェクトが「リサイクル」に移動されると、オブジェクトの属性のほとんどは削除（はぎとり）され、オブジェクトには、フォレストの他のドメイン コントローラにオブジェクトの新しい状態を複製するのに必要ないくつかの属性のみが維持されます。オブジェクトは、*削除済みオブジェクトの寿命*と呼ばれる指定した構成可能な期間の間「リサイクル」の状態になります。Recovery Manager Forest Edition が提供する**削除済みオブジェクト**コンテナを使用することができます。

親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する

この Recovery Manager Forest Edition の新規機能によって、その親コンテナも削除されたとしても、削除済み Active Directory オブジェクトを回復できるようになりました。オブジェクトなどの回復時に、Recovery Manager Forest Edition は、オブジェクトの LastKnownParent 属性の値を取得してそのオブジェクトの最後に分かっている親を識別します。最後に分かっている親が削除された場合は、Recovery Manager Forest Edition は、その親と一緒に削除済みオブジェクトを回復します。

Recovery Manager for Active Directory Forest Edition 7.9 の新規機能

進行中の研究開発の結果およびお客様のフィードバックに対応して、この Recovery Manager Forest Edition の最新リリースには、以下のサブセクションに記載されている新機能が搭載されています。

グラニューラ、ドメインレベルの回復

Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンでは、Active Directory フォレストのドメインを選択して回復することができます。フォレスト全体を復元する代わりに、フォレストが含んでいる 1 とまたは複数のドメインの復元操作を実行することができるようになりました。このメソッドは、危険または不必要なデータを含んでいるドメインや復元するドメインを選択する場合に便利です。ドメインを選択して復元処理を実行する前に、危険または不必要なデータがフォレストの他のドメインに複製されていないことを確認することをお勧めします。

ドメインを選択して復元する場合は、回復するドメインのみを含んでいる新しい回復プロジェクトを作成するか、フォレスト全体の既存のプロジェクトを開いてそのプロジェクトで回復するドメインを選択することができます。

ドメイン コントローラの降格

新規復元方法 (Active Directory のアンインストール) は Recovery Manager Forest Edition の新しいバージョンで使用することができます。この方法を使用すると、Active Directory を回復プロジェクトのドメイン コントローラからアンインストールしてオリジナルのホーム ドメインのメンバー サーバーに降格するために、Dcpromo ツールによって提供される機能を使用することができます。

回復の警告

Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンでは、回復プロジェクトの警告を作成、管理、監視することができます。

警告は Forest Recovery コンソールに表示する情報メッセージで、DC 回復の進行状況に関する情報をリアルタイムに提供します。1 つまたは複数の DC が警告プロパティで指定した回復を完了した後に、回復プロジェクトで警告を表示するように構成することができます。各回復プロジェクトで、複数の警告を作成して構成することができます。また、必要に応じて既存の警告のプロパティを変更したり、警告を削除することができます。

回復一時停止

Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンでは、回復プロジェクトの作成、一時停止、管理一時停止、および監視一時停止を行うことができます。

一時停止では、一時停止プロパティで指定した回復段階に入る直前に、1 つまたは複数の DC の回復を自動的に一時停止することができます。一時停止されたポイントからこれら DC の回復を手動で続行することができます。この新しい機能は、Recovery Manager Forest Edition の外から手動のアクションがとられた場合に回復操作を一時停止する必要がある、または Active Directory のすべてのサイトを復元するのにフォローザサン アプローチを実行する必要がある場合にのみ使用できます。

それぞれの一時停止では、一時停止を適用する DC と、一時停止を実行する前の 1 つまたは複数の段階を指定することができます。回復プロジェクトで、それぞれの DC に複数の一時停止を作成することができます。また、既存の一時停止のプロパティを変更したり、以前作成した一時停止を削除することができます。

回復計画

Quest Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンに導入された回復計画機能は、回復処理の全体的な透明性を向上させるために設計されました。計画は、Forest Recovery コンソールの現在の回復プロジェクトで生成および表示できる詳細な回復処理のロードマップです。計画では、回復が開始された後でプロジェクトの DC が経由する各回復段階と操作を提供するので、フォレストやドメイン回復操作のそれぞれの状況を理解したり管理することができます。

回復処理を進める前に回復計画を生成し確認することで、プロジェクトの適切な設定の調整を行うことができますので、不必要な回復操作省くことが可能になります。必要に応じて、生成されたプロジェクト回復計画を印刷したり、pdf、xml、csv、tiff、および Excel など回復計画機能が作成する Microsoft SQL Server Reporting Services (SRSS) によって提供されるさまざまな表示フォーマットにエクスポートすることができます。

Forest Recovery コンソール / Forest Recovery エージェントの通信の安定性

Forest Recovery コンソールと Forest Recovery エージェント間の通信は、Forest Recovery コンソールが回復する DC にインストールされている Forest Recovery エージェントに接続する指定した DNS サーバーへアクセスできない場合でも、回復操作ができるように改善されています。

このリリースに付属されている Forest Recovery コンソールの新しいバージョンは、回復プロジェクトに追加される各 DC の IP アドレスを格納します。これによって、Forest Recovery コンソール / Forest Recovery エージェントの通信リンクの全体的な永続性と安定性が改善され、正常な回復をするための機能的な DNS サーバーを持つ必要がなくなります。

Forest Recovery エージェントの管理

また Forest Recovery コンソールには、回復プロジェクトに追加された Forest Recovery エージェントの監視および管理ができる新しいユーザー インターフェイスがあります。この新しいインターフェイスを使用すれば、Forest Recovery エージェントのインストール、更新、削除することができるだけでなく、プロジェクトの DC に現在インストールされているエージェントのバージョンを確認することができます。

ユーザー インターフェイスの改善

Forest Recovery コンソールのユーザー インターフェイスは、既存の機能をそのままに、不必要な要素をなくし、さらに明確、簡単、および直観的なインターフェイスに改善されました。ユーザー インターフェイスの改善点には、DC 名、回復方法、ホーム ドメインまたはサイト、および FSMO ロールなどさまざまな条件でプロジェクトの DC をグループ化、並べ替え、およびフィルタする機能が含まれています。

また、プロジェクトの DC を回復するのに使用するバックアップの作成時間の許容範囲（時間）を指定することもできるようになりました。時間差が指定した値より大きな場合、Forest Recovery コンソールは警告メッセージを表示します。

カスタム スクリプトの実行

Recovery Manager Forest Edition を、回復操作の最中または前後に Recovery Manager Forest Edition のコンピュータでカスタム スクリプトを自動的に実行するように構成することができます。

Recovery Manager Forest Edition のこのバージョンは、VBScript または JScript 言語で書かれているカスタム スクリプトを挿入できるテンプレートとして Microsoft Windows のスクリプトファイル (.wsf) が付属されています。

.wsf ファイルには、スクリプトを挿入できる多数の xml 要素があります。挿入する xml 要素に応じて、スクリプトが以下のように実行します。

- 現在のプロジェクトの回復操作が開始する前。
- 現在のプロジェクトの DC のバックアップからの復元操作が開始する前毎。
- 現在のプロジェクトのすべての DC のバックアップから復元操作が終了した後。
- 現在のプロジェクトの Active Directory の再インストール前。
- 現在のプロジェクトの DC の Active Directory 再インストール操作が開始する前毎。
- 現在のプロジェクトの DC の Active Directory 再インストール操作が終了する毎。
- 現在のプロジェクトの回復操作が終了した後。

グローバル カタログ データベースを再構築しない機能

Forest Recovery コンソールで、バックアップからの復元後フォレストのグローバル カタログを再構築するかどうかを指定できるようになりました。Active Directory バックアップに保存されているグローバル カタログ データを使用して、Exchange 組織の機能を復元する場合に、この機能は便利です。

復元されたグローバル カタログを変更しないでそのまま残すと、組織の Exchange を簡単に復元することができる一方で、この方法は正常に機能しないフォレストが復元される可能性があります。グローバル カタログが復元されたフォレストの変更を反映するように、バックアップからの復元直後にグローバル カタログ データベースを再構築することをお勧めします。

回復レポートのエクスポート

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) を元に構築された回復レポート機能で、Forest Recovery コンソールで生成された回復レポートを、pdf、xml、csv、tiff、および Excel などのさまざまなフォーマットにエクスポートできるようになりました。

バックアップ フィルタ

Forest Recovery コンソールの新しいバージョンは、プロジェクトの DC を復元するのに使用する登録されたバックアップの条件を指定することができるバックアップ フィルタを含んでいます。フィルタは、条件に一致しない登録されたバックアップを隠して、回復に絶対必要なバックアップを中心に扱うことができますようにします。

バックアップ フィルタで指定した条件はプロジェクト固有であり、以下で Forest Recovery コンソールを使用する場合に適用します。

- 回復プロジェクトの DC の最新バックアップを自動的に選択する場合。
- Recovery Manager for Active Directory データベースで登録されたバックアップのリストを表示する場合。例えば、Forest Recovery コンソールで DC のバックアップを選択する場合。

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) のサポート

Recovery Manager Forest Edition のこのリリースでは、インターネット プロトコルの最も安全な最新のバージョン IPv6 を完全サポートしています。IPv6 は Windows Server 2008 または Windows Vista オペレーティング システムを実行しているドメイン コントローラにインストールされており、デフォルトでは有効にされている、新しいより安全なインターネット プロトコルです。

これにより、Recovery Manager Forest Edition は IPv4 および IPv6 の混合環境とネイティブ IPv6 環境の両方で同じようにスムーズに実行します。

Recovery Manager for Active Directory Forest Edition 7.8 の新規機能

進行中の研究開発の結果およびお客様のフィードバックに対応して、この Recovery Manager Forest Edition の最新リリースには、以下のサブセクションに記載されている新機能が搭載されています。

Windows Server 2008 のサポート

Recovery Manager Forest Edition が、Windows Server 2008 の 32 ビットまたは 64 ビットバージョンを実行しているコンピュータにインストールして使用できます。Windows Server 2008 に搭載されている Active Directory のバージョンも完全に対応しています。

フォレスト回復の持続性

この新機能は、フォレスト回復セッションが予期せずに終了した場合、最後のフォレスト回復セッションを再開する保護メカニズムを実行します。

Recovery Manager Forest Edition は、回復セッションが予期せずに終了した状態で、フォレスト回復セッションを保存します。たとえば、Forest Recovery コンソールがシステム障害のために強制的にシャットダウンした場合などです。この場合、次回 Forest Recovery コンソールを起動する場合、中断された地点からフォレスト回復操作を再開するように促します。